

○談判第四日記事

二月二十日午後七時三十分黒田辦理大臣井上副辦理大臣朝鮮國大臣申  
權<sup>イ</sup>滋承ト執事廳ニ於テ談判浦瀨裕通譯森山茂野村靖安田定則小牧昌  
業鈴木大亮荒川德滋陪坐相見ルノ儀畢テ

大臣 今夕來訪スルハ今日訓導ヨリ宮本へ引合タル條約案ノ儀ニ付面  
接ヲ請タル儀ナリ

申 今日議政府ヨリ公文到來之ヲ貴大臣へ御覽ニ入ルヘキ旨申越  
セリ過刻訓導ニ命シ御旅館へ持セ遣シタルハ即チ是ナリ當所  
へ御出會前ニテ御一閱無之趣ニ付今貴覽ニ呈ス

大臣 拜見致スヘシ

此時議政府ヨリ申尹二大臣へノ委任狀及我カ大臣へノ照會文

51

ヲ出ス一覽了テ

申 議政府照會案ハ此文面ニテ御異存無之ハ其趣京師へ申遣シ署  
印ノ上差上可申先ツ御内見ニ供シタルナリ

大臣 己ニ一覽ハ經タ<sup>レ</sup>レ共猶持チ歸リ熟考ノ上後日何分ノ回答致ス  
ヘシ

申 承知セリ

大臣 今日訓導ヨリ宮本へ引合ノ趣ニテハ條約批准ノ儀御異存有之旨  
承リタリ條約案ノ儀ニ付過日來御談判ノ次第モ有之相改メシ箇  
條不少然ルニ批准ノ儀ハ條約ノ大眼目ニシテ必ス君主ノ署名鈐  
印ヲ要スルハ過日宮本ヨリモ申述タル通ナリ今國王ノ御名ヲ署  
サル、事出來難シトナレハ條約ヲ結フノ證無之最初御協議ニ及

52

ヒシ條款中緊要ノ件モ曲テ貴意ニ應シ我カ政府ニテ不滿意ノ儀  
トハ存シタレド初稿ヨリ許多減削セリ但批准署名相省クノ事ニ  
至テハ決シテ貴意ニ從ヒ難シ乃チ我カ皇帝陛下ノ御批モ追テ差  
進スヘキ筈ナレハ國王批准署名ナキノ條約書ハ受取り復命イタ  
シ難シ

申

兩國交際ノ道ハ誠信禮義ヲ以テ主トス批准ノ儀ハ先日吳慶錫  
玄昔遲ヲ貴館ヘ差出シ寫取ラセタルニ朝鮮國王御寶トノミ認  
メ有之其儘京師ニ稟報セリ尤右批准ハ臣下ニ對シタルノ文意  
ナレハ我カ國ニ於テハ臣下ニ對シ王名ヲ署スル儀無之右ハ夜  
前宮本氏ヘモ縷々申述置タリ然ルニ臣下ヨリ其君ニ對シ署名  
ヲ請フハ禮ニ於テ不可トス此事ハ本大臣死ストモ能ハス且先

大臣  
日示サレシ文案ニモ御名ヲ署スルノ事ナク既ニ朝廷ノ決議ヲ  
經タリ今更申立ルハ如何ニモ不都合ナリ  
我國ト清國トノ條約モ互ニ御批ノ國文ヲ交換ス各國皆然リ尤モ  
從前貴國國書ニモ國王ノ御名ヲ署セリ今批准署名ナケレハ條約  
相結ヒ候儀ニ至リカダシ

申

最前申上シ通此事ハ京師ヘ稟報ノ節御名ナキ者ニテ差出タレ  
ハ今又署名ノ儀ヲ稟議スルトキハ大ニ人心ニ關係シテ容易ナ  
ラス且各國ノ例ヲ引キ諭サル、トイヘ共國各其法アリ我國ハ  
我國法ヲ守ルヲ以テ至當トセリ

大臣

申

原稿ニ朝鮮國王御寶トアリシハ署名押印ノ儀ナリ  
我國ニ於テハ外國通信ニハ爲政以德ノ御寶用ヒ朝鮮國王及御

名ヲ刻シタル印章ナシ

副大臣 國王署名ハ如何ニモ不相叶之カ爲メ條約成ラヌ交際破ルニ至ル

モ已ムヲ得サルヤ

尹申

人臣ノ身トシテ國王署名ノ儀ヲ申請スルハ何分相叶不申併シ  
ナカラ貴大臣等ニ接晤シ修好ノ議殆ント完成スルノ際ニ至リ  
批准一條ヲ以テ交誼ヲ傷ルハ誠ニ遺憾ノ次第ナレハ情實篤ト  
御諒有之度

副大臣 勿論兩國ノ交誼ヲ傷ルヲ欲セサルカ故ニ反覆辨論ニ及ヒシナリ

貴大臣等動モスレハ禮典ヲ主張イタサルレ共各國交際ニ於テハ  
自國ノ禮ヲ執テ之ヲ他國ニ行ヒ難キ事アリ兩國條約ヲ結フニ御  
批ナケレハ其國君ノ許可ヲ經タルヤ否ノ儀判然タル證憑ナシ御

53

名ヲ署スルハ貴國ノ禮ニ礙アルニモセヨ之カ爲ニ交誼ヲ傷リ民

ヲ塗炭ニ苦ムルト孰カ重キ孰レカ輕キ

申

臣トシテ君ニ請フニ署名ヲ以テスルハ禮ニ於テ吾ノ能ハサル  
所ナリ何卒本官等爲シ得ヘキ事ヲ御相談被下タシ批准ノ体裁  
議政府ノ奏本ニ國王ヨリ允ノ字ヲ署セラレタル者ニテハ如何

副大臣 國王ノ署名ナク唯允ノ字ヲ記シタル而已ニテハ證憑トスヘキ者

ナク兩國君主ノ結約シタルヲ公認スルヲ得ス一体條約ハ必ス其  
君主ノ御批アルハ萬國普通ノ法ナルニ貴大臣等言ヲ左右ニ托シ  
之ヲ拒ムハ交誼ヲ傷ルノ意アルニ非スヤ

尹申

我カ政府ニ於テ舊好ヲ重ンスルカ故ニ我輩ヲ派シ貴大臣等ニ  
接見シ修好ノ事ヲ議セシメタリ豈ニ猜嫌ノ意アラシヤ唯批准

53

ノ一事ハ臣下ニ對シ御名ヲ署スルハ猶父ノ其子ニ對シ己カ名  
ヲ親書スルカ如ク其理ナシ

大臣

貴國ノ禮ニ於テハ然ルヘシト雖トモ條約批准其君主ノ署名アル  
ハ普通ノ法ナリ本大臣等命ヲ奉シ國ヲ出ルヤ兩國永遠不易ノ條  
約ヲ議立スヘキヲ委任セラレシニ今御名一事ヲ以テ和議<sup>諸</sup>ハサ  
ルニ至ルトキハ實ニ遺憾ニ堪ヘス我國年來貴國ト舊好ヲ續クノ  
盛意貴國之ヲ省セス今又専ラ自家ノ禮典ヲ主張セラル、ニヨリ  
テ條約ナラサルニ至ラハ我國情紛紜兩國必ス平和ヲ保ツヲ得サ  
ルヘシ抑我國長崎ヨリ此地<sup>マ</sup>キテ貴國里法ニテ二千二三百里下ノ  
關ハ少シク之ニ過ク汽船ニテ此地ニ航スルニ晝夜ヲ踰ヘス今和  
好ノ議決定スル迄此兩港ヘ我カ兵隊屯集シ居レリ既ニ先日品川

申

丸下ノ關ヲ發スル時本大臣等ハ貴國ニテ暴擊ニ遭ヒタル杯ノ風  
説アリ稍紛紜ヲ生セシ由尤兩國商議ノ條件互ニ相譲リ得ヘキ事  
ハ曲從ス可シト雖モ緊要ノ處ニ至テハ相讓ル能ハス即チ御批一  
節是レナリ此事<sup>諸</sup>ハサレハ兩國講和ノ道モ絶ヘ必ス紛紜ヲ生セ  
ン其時ニ至ラハ貴大臣等必ス思ヒ當ラルヘシ右ハ直ニ肺腑ヲ吐  
露シ陳述ス遺憾ナレトモ貴大臣等ニ會晤スルモ今夕ヲ限リトス  
我國ニ於テハ決シテ和好ヲ傷ルノ意コレナク乃チ釜山ヨリ先  
報ノ意ヲ承ケ本大臣爰ニ派出接見シ修好立約ノ件己ニ七八分  
ニ至レリ批准ニ國王ノ御寶ヲ押スルハ稟議ノ上ハ相運フヘシ  
御名ヲ署スルハ何分ニモ行ハレ難シ夫ニ就テハ然ルヘク更ニ  
便法ヲ示サレタシ

大臣

貴國禮典ノ儀ハ既ニ己ニ承知セリ然シナカラ事ニ變通ナカル可  
 ラス即チ此茶碗ノ如キ茶ヲ斟ムノ器ナレトモ亦他ノ物ヲ盛ルニ  
 換用スヘシ世ノ開化ニ隨テハ一概ニ拘泥ス可ラサル者アリ大小  
 銃ノ如キ往昔ハ火繩ヲ用ヒ火ヲ發ス今貴國ニ用フル所ノ者はナ  
 リ其後燧ヲ用ヒ之ヲ鑽リテ火ヲ發スルニ變シ現今ハ雷管ヲ用ユ  
 旋條銃アリ元込アリ圓彈ヲ變シテ長彈トナス變スル毎ニ益精巧  
 ナリ大砲ノ最精ナル者一脈ニ三發十丁ニ達スヘキアリ此地ニ携  
 ヘ來レリ日新ノ效己ニ是ノ如シ然ルニ批准一條貴國ノ禮典ニ拘  
 泥シテ變通セス遂ニ交誼ヲ傷ルニ至ルヘク誠ニ惜ム可シ本大臣  
 ノ言フ所今日ハ御領解ナラサルモ他日必ス御領解アラシ  
 器物ヲ以テ御比喩ノ趣了解セリ併カラ器物ハ左モアルヘシ君

尹申

臣ノ情ハ之ニ異ナリ變通ハ不相成ナリ但貴國ニ對シテハ過刻  
 貴覽ニ供シタル議政府照會文ニモ情同兄弟ト有之如ク益舊好  
 ヲ敦クセントノ意ナレトモ批准署名ノ儀ハ是非御斷リ申度尤  
 貴國ヲ除クノ外各國トハ何所迄モ修好結約ハ爲サ、ルナリ

大臣

君臣ノ情義變通不相成ハ承知セリ然トモ條約批准ハ臣下ニ對ス  
 ルノ辭ト雖モ兩國交換スヘキ者ナレハ官國ヘ對シ交際ノ禮ニ關  
 係ス右ハ昨夜宮本ヨリモ縷述セシ筈更ニ便法ナシ貴大臣等一概  
 執拗御名ノ事ヲ肯ンセサレハ幾回辨論スルモ無益ナリ今夕ハ是  
 ニテ辭去スヘシ

尹申

仰ノ通夜深ニ及ヘハ辭別イタスヘク御名一條ハ猶御熟考被下  
 度其他ノ箇條ハ總テ異議コレナキナリ

大臣 誠ニ遺憾ノ次第ナリ御名ノ儀モ異議ナカルヘシト察シ不日双方

鈴印ノ運ニ至リ諸事結局ノ上ハ過刻申述ヘシ當地ヘ携來ル所ノ  
大砲一座國王殿下ヘ獻シ貴大臣等ニハ短銃ヲ贈呈セント專ラ修  
好順成ノ日ヲ待チ居シニ豈料ランヤ勿々起程ノ事ニ立至レリ貴  
大臣等他日悔フル事無キヲ要ス乍然先ツ今晚ハ當地ニ滞留スヘ  
シ

右ニテ談畢ル十二時歸館

61

○二月二十一日森山權大丞會見記事

二月二十一日午前十一時森山茂鈴木大亮朝鮮國大臣申樓ト其旅館ニ  
於テ談判浦瀨裕通譯宮本小一野村靖同坐

森山

昨夜執事廳ニ於テ御應接ノ際貴國王陛下ノ批准御名ノ義ニツキ貴大臣  
云フ我大臣演述ノ旨趣前後相違セリト然ルニ該件ハ我大臣ニ於テ相違  
シタル廉絶テ無之ニヨリ最前兩訓導 吳慶錫 玄昔運 我旅館ニ來リ條約案ヲ寫取  
リタル手續等篤ト申述ヘ齟齬ヲ生シタル原由ヲ詳明ニ致スヘキ旨我兩  
大臣ノ命ヲ受ケ參館セリ  
申

62

我國王殿下ノ御名ヲ署スルノ一案ハ縱令最初ヨリ御談判ニ相成タル